

市民文芸

短歌

令和四年度阿南市文化祭秋季短歌誌上大会選

自由題 特選

銃口を額に受けて目を瞑るコロナ検温処刑のごとし
中原きみ子

飛車落ちの孫を相手にパチインと王手打つ音むき出しのおと
浅海 弥生

密である時過ごすべき君たちに密を避けよと叫び続ける
郡 雅和

ゆずの里木頭に抜ける国道に灯りが点る「未来」
松江 敬子

「詳しくはホームページ」と切り捨てる絶滅危惧種か老人われは
小畑 定弘

ひこばえの田を猫従えゆるゆるとカーペンターズ夫とハモリぬ
森岡 佳子

入選
書きさしの歌稿のファイルを保存したしばらく寝かせ発酵させる
中山 善嗣

お金より娘が側にいてほしい厨に立つたび出る溜息は
宮本久美子

こんなこと起きて良いのか日本で安倍元首相弾丸に死す
森 ゆき子

差し水のやうに娘よりメールありコロナに煮詰まるわれらの時間に
中原きみ子

俳句

阿南市俳句連合会選

帰り道行きと同じの浮寝鳥

藤井李華女

実りたる重さに傾ぐ実南天

小西 晴美

忘年の百歳体操ケーキ出て

浜田百合子

寒月や小原庄助口遊む

田上 隆敏

冬景色みたさ車椅子こぎ始む

竹谷 由美

初雪や母の形見は父の品

野口 千代

年の瀬や亀も甲羅を磨かれて

石井 政子

着膨れて百歳体操背を伸ばす

笹田 知睦

釣果得て魚配りの師走かな

久米 千草

まずさがすWの形冬の空

久米 浩一

川柳

阿南川柳会 選

戦場に明日が見えない日が沈む

渡邊 浪漫

たつぷりと心に抱いて出す答え

二階千代美

若い頃の多忙がなつかしい自由

野村 敏子

爪に垢あれば欲しいな聡太殿

橋本 征介

コンビニのむすび頬張る紅葉狩り

佐藤つたえ

スタップの笑顔嬉しいデイケアー

鈴木レイ子

欠点をささり補い笑み誘う

篠原 良子

遠慮する口の割には欲しい顔

高木 旬笑

一般応募

ライバルが追い越して行く白い息

島尾美津子

知恵袋スマホに取られ出番なし

武田 敏子

漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社 選

寒屋獨酌

北房閑坐酒壺開

北房に閑坐して

山川 治

燈影寥寥醉未催

燈影寥寥たり 醉未だ催さず

世上喧騒無意緒

世上の喧騒 意緒無し

触窓風葉促乾杯

窓に触るる風葉 乾杯を促す

看梅

孤筇乘露看梅遊

孤筇露に乗ず 看梅の遊

白萼紅葩溪水頭

白萼紅葩 溪水の頭

遇迓清芬林苑徑

遇し迂う清芬 林苑の徑

逍遙暫佇洗春愁

逍遙暫く佇み 春愁を洗う

探梅

寒中漫步滿眸餘

寒中の漫步 滿眸餘かに

十里夕陽人影斜

十里夕陽 人影斜なり

入林徑通溪水畔

林に入り徑は通ず 溪水の畔

早梅迎我發紅花

早梅我を迎えて 紅花を發く

高橋 静雄

松原 伸夫

